巻　頭　言

ご　挨　拶

病院長　三　木　真　司

三菱京都病院医学総合雑誌第21巻発行にあたり，ご挨拶申し上げます．

当誌は1994年の創刊以来，毎年１回の発刊を重ね，昨年には20周年記念号を発刊するに至りました．この間編集の労をお取りいただきました歴代の編集委員長，ならびに編集委員の方々，さらには貴重な投稿をいただきました著者の皆さま方に厚く御礼申し上げます．

さて2014年は日本の医療界にとって大きな動きのあった年となりました．４月の診療報酬改定と消費税増税，６月の医療介護総合確保一括法案の成立，10月の病床機能報告制度の開始，と矢継ぎ早に大きな改革がありました．団塊の世代が後期高齢者に到達する，いわゆる2025年問題を見据えて，社会保障制度改革のスピードが一気に上がった感があります．今後も改革のスピードが速まることはあっても，緩まることはあり得ません．私たちもこれからは制度改革に先んじて自らが変わっていく，意識改革を求められています．すなわち“病院完結型の医療”から“地域完結型の医療介護福祉を統合した地域包括ケア”への発想転換がより求められています．

当院では本年３月に老朽化したPET装置を最新鋭のPET-CT装置に更新しました．京都府がん診療推進病院として，がんの診断に不可欠な画像診断機器の導入をようやく実現することができました．京都市西部～乙訓地域では唯一のPET-CT装置として，早速近隣の病院や医院からも多くのご紹介をいただいております．PET-CT装置の導入とその円滑な運用にあたっては，放射線科大田部長を中心としたPET-CT運用ワーキンググループの皆さまに多大なご尽力をいただきました．改めて関係各位に感謝申し上げます．

今年も病院職員の海外での学会発表が相次ぎました．消化器外科の尾池文隆副部長，田中崇洋医師は６月に欧州パリで開催された世界内視鏡外科学会において，腹腔鏡下肝臓切除の演題をビデオ口演発表されました．他にも心臓内科の横松孝史副部長，心臓血管外科の長田裕明医師，臨床工学科の篠原智誉主任がそれぞれ海外の学会で発表されました．医師のみならずメディカルスタッフが海外の学会で積極的に発表することは，当院のチーム医療の質の高さを示しています．今後は学会発表を論文化していただくことを期待します．

最後に，当院心臓血管外科の中島博之部長が来年３月に山梨大学第二外科講座の教授に就任されることとなりました．この快挙は中島部長のたゆまぬ研鑽の賜物であることは言うまでもありませんが，共に働いてきた私たちにとっても大きな喜びであります．中島部長の今後ますますの発展をお祈り申し上げます．

2014年12月